

# 日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

## ボストン総領事館開館と日本語学校の思い出

代表幹事 井口武夫

私がボストン総領事館の開設を命ぜられたのは1979年4月であり、所要の予算は同年10月以降に配賦され、先発の館員がボストンに着任したのは12月頃であったと思います。

私は海洋法会議が最終段階にあったため80年4月に赴任の予定でありましたが、父が危篤となり5月末に死去したため、四十九日の法要を済ませて着任したのが7月後半になりました。

オフィスはボストン連銀ビルに確保して、当時の総領事館では最も快適で機能的であると大河原大使に羨ましがられました。私がニューヨークの海洋法会議出席中の週末に、ボストンに来て部屋の間取り設計など細部にわたって指示をしました。

開館で苦勞する一つは、優秀な現地職員を採用することですが、幸いボストンは日本人で有能な方が多くて選択に困りました。米人スタッフも日本語を大学で勉強した学生が多く、運転手迄が大学出であることは他の在米公館に例がありませんでした。

公邸探しにも苦勞がありました。本省が賃貸の大きな家を探す方針に固執したため、良い家の売り物はあっても、適当なものがみつからず、結局、通勤に便利で他の館員の住居地にも近く安全なブルックラインに中位の家を見つけて入居しました。息子3人は芝生の広い庭で野球が出来るために大変喜び、学校の友達とソフトボールをエンジョイしていました。拙宅に来られた当時の小和田雅子嬢が息子を相手にボール投げを興じられたこともありました。

ボストンの日本人会はドクター堀内や、MITの増淵先生、ハーバード大学の久野先生等の一流人が多くおられて、極めて和の保たれた仲の良い組織がありました。初代総領事を歓迎し、暖かく協力して戴き、大変お世話になりました。

日本企業は当時、日本電気・日本電子が大世帯であり、特に日本電気は高木さんがおられて日本のピ

ジネスグループを纏めておられ、私とはコンビで日本関係の広報講演で何回も旅行をしたのも楽しい思い出になりました。

日本人社会の大事な問題として日本語学校の改革と拡大がありました。私の着任前の日本語学校は現地の方々の涙ぐましい努力で運営されていました。

その授業内容に関して、日本のレベルとの調整を図ることが必要であるとの意見が短期滞在子女のご家族から出される一方で、長期滞在・永住のご家族の方々からは日本人としての基本的認識・知識に重点を置くことが望まれている様に思われました。それぞれのお立場から日本語学校に対するご期待にどう応えるかが難問でありました。

当時の一部のご父兄からは、日本政府の考え方に疑問を抱き、授業料も無料にして欲しいという要望すらありました。幸いに本省から在外日本人学校問題に豊かな知見を有する学芸大の中西先生が派遣され、関係教員や父兄の方々との充分な意思疎通を図ることに成功しました。久野先生や増淵先生のご理解とご協力を得て、ボストン邦人社会の子女教育のニーズを充たすブループリントを作り上げて、父兄総会のご賛同を得た時は本当にほっと致しました。

そこで、現地邦人の方々のご期待に沿うべく、早急に日本から正規の教員を派遣してくれるように強く具申をしましたが、本省は各地の公館から同様の陳情を受け、激烈な競争がありました。結局、ボストンとローマが最後の候補となり、その年度の都道府県教員派遣はボストンに凱歌があがりました。

日本語学校創立20周年記念行事にあたって、これで日本語学校の前途は洋々としたものになると考え、ボストンで3年以上頑張った甲斐があったとしみじみとした感慨を思い出しております。関係各位のこれまでのご努力とご尽力の成果に、衷心からお慶びを申し上げます。(現東海大学教授・国際法)

## 北の辺地から -近況報告-

4代目校長 豊田 収

「ボストンへ帰りたい。」と泣いていた、帰国当時小2だった長女が、高校生になりました。「ブリガム アンド ウイメンズ ホスピタル」で生まれた二男が8歳になりました。時は容赦なく過ぎますが、ボストンの記憶は、その流れに無関係です。

私は昭和59年(1984)4月から昭和62年(1987)3月まで、ボストン日本語学校でお世話になりました。豊田でございます。北海道南部の日本海側、江差追分で有名な江差町を中心とする檜山(ヒヤマ)管内の教員をしております。

晴れた日は、震災の島、「奥尻島」が臨めます。現在住んでいる町は、都会住まいの方には信じられない所でございます。

下水道の普及率0%! 町内の交通信号機1基。熊の出没は日常茶飯事。(こちらの熊は、ヒグマという種類で、狂暴で大型のため危険です。) 喰(マムシ)多数生息、毎年被害者あり。おまけに今年のは、大型の鮫が出ております。このような所にも、人々が暮らしを営んでおります。子どもがおり、学校があります。

国際化の波は、このような僻地をものともしません。英語指導助手がグロスターの人だったり、ニュートンの人だったり・・・ハーバード大学出身のヘンシュ貴雄君が遊びに来たり、チルドレンズ ホスピタルのお医者様で、日本語学校で数学を担当していただいた、Dr. 市川(現ヴァンダビルト大学教授)がご長男を連れて遊びにきてくださったり・・・広中平祐先生と江差町の居酒屋で飲む機会があったり・・・など、私の小さな、ボストンが起源のネットワークも楽しいものになっております。

日本ボストン会の創立を知り、是非お仲間へ入れていただきたいと思っております。

お世話になった皆様とお会いできる日が楽しみでございます。

また、函館方面へお出かけの皆様には、ガイドを引受けますので、ご連絡をください。

カミノクニ

(現町立上ノ国中学校教頭)

## ボストン日本語学校20周年を祝す

5代目校長 高橋 悦男

私は、昭和62年(1987)4月から平成2年(1990)3月まで文部省の在外教育施設としてボストン日本語学校に勤めました。在任中は、日本の国状を反映してか子供も教員も急増し、一方、転出者もまた多く、とにかく忙しくしかし活気に満ちたものでした。

任期中における最大の思い出は、皇太子殿下・美智子妃殿下のボストンご訪問時のローガン空港お出迎えと、ジョン万次郎ゆかりのフェアヘーブンの日米交流行事へ、日本語学校がしたことです。

特に、フェアヘーブンの交流行事では、「さくらさくら」を日米の子供が日本語の歌詞と、英語に訳された歌詞で歌った時の事です。

皇太子殿下より直々に、「日本の歌を歌ってくれてありがとう。」とのお言葉を賜りましたが、このことの名誉と感動は生涯忘れることのできないものとなっています。

次に忘れられないことは、任期の終りの年に日本語図書館をメドフォード校内に設置したことです。日本人会はじめ在ボストンのNEC、JEOI等各企業、そして外務省・総領事館、文部省、それに何と言ってもメドフォード校の強力な支援のもとになったものでした。

以前は、借用校舎を他へ移そうという考えもあったと聞きましたが、今はすっかりこの学校に根を張り、コミュニティスクールである同校を一層充実させていることは本当に喜ばしいことです。

また、この図書館は、アーリントンの事務所から授業日や行事毎に搬入・搬出していた機器・教材・教具等を保管できる空間ともなり、普段の教育活動がより円滑に展開できる一要因ともなっているとのことですが、図書館誕生に伴う相乗効果として大変嬉しく思っています。

このところ、また学校規模が拡大してきていると聞いております。ボストン日本語学校がさらに将来にわたって益々充実し、日米の教育・文化の架け橋として発展されることを念じております。

(現小樽市立色内小学校教頭)

## ボストン日本語学校の思い出

6代目校長 鶴田 一

ボストン日本語学校創立20周年を心からお祝いいたします。

私が6代目校長として在職致しましたのは、平成2年(1990)4月より5年(1993)3月までの3年間でありました。

ボストン日本語学校及びボストンでの3年間は誠に思い出深いものがありました。

創立当時の厳しい状況と異なり、私が在職した時代は、比較的充実しつつある時期でありました。"教育は人なり"と言われる如く、良い教師を確保することが、最も重要な事でした。しかし、この点にも比較的恵まれました。1週間に1回の土曜日の授業ではありましたが、その土曜日を子ども達にとって意義あるものにするために全教員が真剣に全力をあげて取り組んでいました。"たかが土曜日されど土曜日"の意気はまさしく軒昂ありました。

平成4年度の幼稚園から高校・日本語クラスまでの総人数は469名、24学級にも達しました。この子ども達に、できるだけ日本の文化に浸らせたいとの願いから、始業式から運動会、百人一首大会、朗読発表会、卒園式、卒業式など、できるだけ取り入れました。

とりわけ、運動会は灼熱の太陽の下、日本人会とも連携して、保護者の方共々楽しい一日を過ごしたものでした。なかでも、地区別の綱引きや学年別のリレーは、子ども達よりむしろ親の方が熱中し、正しく一喜一憂していました。あんな楽しい運動会は日本では味わうことができません。これもPTAの全面的な協力があって、はじめて成り立つものでした。

その他、殆ど練習もしない卒園式、卒業式も日本的な雰囲気の中で整然としかも盛り上がりのある感動的な式でありました。なかでも、小学部の代表の答辞は今でも私の脳裏に焼きついているぐらい鮮烈な印象を受けました。

いろいろ思い出は語り尽くせません。私自身の心の中に"ボストン日本語学校"が生きています。

ボストン日本語学校を支えて下さっていたのは、ボストン総領事館、日本人会、学校運営委員会、PTAの方々でありました。

とりわけ、法眼・望月総領事、岩佐・吉野両日本

人会々長、安武PTA会長さんには一方ならぬご指導ご尽力をいただきました。今でも感謝の気持ちで一杯です。

ボストンの3年間を通して、私は教育界の先人だけでなく、いろいろな分野で活躍されているすばらしい方々との出会いを得ました。そして、私なりに多くの事を学ばせていただきました。この事は私の宝であります。本当に感謝致しております。

最後になりましたが、ボストン日本語学校及び日本ボストン会が益々発展されることを祈念して、感謝の気持ちと致します。

(理習志野市立中学校第5中学校校長)

\*\*\*\*\*

## ボストン日本語学校 創立20周年記念行事

ボストン日本語学校は1975年6月に創立され、創立当初約25名で発足したが、関係者のご努力により、本年4月には幼稚園9クラス、小学部12クラス、中学部3クラス、高校部1クラス、日本語部3クラス、生徒総数は537名の学校になりました。

1990年7月には、現地との文化交流、日本語の普及など、国外での活躍が顕著である団体として、外務大臣より表彰を受ける榮譽にあずかりました。

長年、日本語図書館の充実にも努め、現在の蔵書は1万冊。貸出業務・検索作業の自動化をはかる作業を進めている。本年10月7日(土)、現在地(メドフォード高校)において20周年記念行事を予定している。このため、卒業生・関係者に教育環境整備・充実のための募金協力を要請している。

\*\*\*\*\*

## アメリカの大学に学んで(続き)

最後に付け足しですが、新潮社出版で阿川尚之氏の書いた「アメリカが嫌いですか」という本がある。これには著者が過ごしたGeorgetown Universityにおける大学生活やその後の様子が書かれている。大学こそ違うが、同じような青春が繰り広げられている。そしてそれこそが変わらないアメリカなのだと思われ、深く感動し、共鳴した素敵な一冊である。ぜひ読んでいただきたいと思う。

# 懇親会のお知らせ

## 日本ボストン会第4回総会のご案内

会員の皆様におかれましては、如何お過ごしですか。当会は新代表幹事に井口武夫先生(初代ボストン総領事)をお迎えし活発な活動を展開いたしました。

当会の発足時から望まれていたニューイングランド/日本の交流も、ボストン日本語学校の創立20周年記念行事の募金活動にたいし、東京で募金を受け入れる銀行口座を開設する形で支援する事で具体化されました。幸い、卒業生のご家族ばかりでなく、日本ボストン会会員のご協力を戴き、79人(9月5日現在)から50万円を越すご寄付が寄せられました。この募金は、9月末にボストンを訪問するツアーグループにお願いして学校にお届けすることになりました。関係者のご協力にたいし衷心より御礼を申し上げます。今後の日本語学校の発展に役立つことを望んでおります。

会員数も114家族になりました。6月の竹中真・安積尚子ジョイントコンサートにも38人が参加され、好評を戴きました。

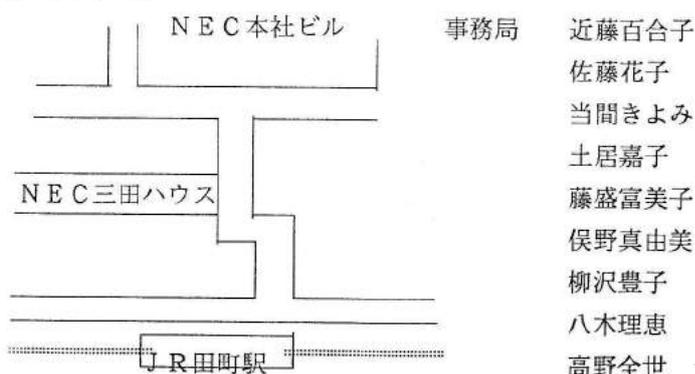
会員全体の年一回の懇親会を下記の通り開催することになりましたのでご案内を申し上げます。多くの皆様のご出席をお願いいたします。

### 記

日時 1995年11月2日(金) 午後6時より8時半(午後6時開場)  
 会場 NEC三田ハウス芝クラブ (港区芝5丁目21番地7号。電話03-5443-1400)  
 会費 当日払い6000円、 同伴者5000円  
 事前振込(10月25日まで) 5000円、 同伴者4000円

- 議題
- \* 1995年度事務局活動報告
  - \* 1995年度同好会活動報告
  - \* 1996年度活動計画
  - \* 新入会員紹介
  - \* ゲストスピーカースピーチ(交渉中)
  - \* 懇親会

出欠のご連絡は10月21日(土)までをお願いいたします。また、この会にご興味のある方もぜひお誘いください。



## アメリカの大学に学んで

山崎 静子

7年前のちょうど今頃、これから始まる大学生活に期待で胸をふくらませていたのだと思うと、改めて時間の流れの早さを感じてしまう。

私が4年間を過ごし、卒業したUniversity of Massachusetts at Amherstは、「少年よ、大志を抱け」で有名なクラーク博士が学長を務めた学生2万5千人を抱えるマンモス大学である。

クラーク博士のお蔭か、日本ともなじみが深く、姉妹校として北海道、上智、ICU、津田塾、南山、関西学院があるということを知ったのは入学して暫くたってからだった。高校2年の終わりに転校し、入学に必要な英語力を計るのに用いられるTOEFLのテストスコア550点を30点も下回った私を受け入れてくれたこの大学は、ボストンより車で2時間、国際色豊かな素敵な大学である。

さて、私の大学生活4年間についてお話すると勉強とテニスと寮生活、そして仲間との交流(PARTYという話もあるが...)に尽きると思う。

テニスの話を先にさせていただくと、高校とは異なり、全てのスポーツはシーズン制で、一年を通して練習する。テニスに関して言えば、8月の終わりに強化練習(preseason camp)に入り、9月・10月下旬が秋のシーズン、そして冬の間は週2回のインドア練習と個別の筋力トレーニング、そして3月下旬から4月下旬までが春のシーズンという具合である。シーズン中は毎日2時間の練習プラス他校との対抗試合。遠征も多く、試合のために授業を休んでバーモント州やペンシルバニア州まで行くこともあった。

勉強に関して言えば、私は自分が在籍した教育学部のことしか分からないが、大学全体のポリシーとしては、生徒は平均でもC以上の成績を要求される。若し平均でCを下回ったら、学ぶ意志がないとみなされ、1学期警告の後に学校を追い出されてしまう。また、多くの生徒が3か月間の夏休みにアルバイトしたお金を学費にしていることもあり、勉強にかけては必死である。平均的な学生は月/木までは一日中勉強し、金と土の夜はパーティ、そして日曜日はまた次週の予習に備えるという感じであるが、図書館やキャンパス内のカフェテリアは夜中12時まで開いているので、その間はひたすら勉強

なのである。

そして寮生活。日本では考えられないかもしれないが、寮のほとんどは男女混合。隣や向かいの部屋が男子などというのはざらである。但しトイレとバスは階で区別され、奇数階は男子、偶数階は女子という具合である。(もっともある一部の寮では移動が面倒で、共同にしてしまったという話もあるが。)

食事は、ミールプランに入ればキャンパス内に点在している食堂はどこでもIDひとつでOK。ベジタリアンコースやユダヤ教徒のための食事などバラエティはあるが、決しておいしいとは言えず、ローテーションメニューに飽きてきた2年目はツナサンドばかり食べていた。また、夕食の時間がラストでも6時30分なので、勉強して11時位にはお腹が空き、同じ寮の仲間と夜食(ピザ等)をオーダーするのが楽しみだった。

ここまで大方私の大学生活について触れたが、何度振り返っても、本当に有意義で輝かしい私の青春の一ページである。アメリカという他民族国家での大学での教育は、多くの価値観を受け入れる。即ち個を尊重するという、人間として、地球人として生きて行く上での姿勢みたいなものを知らず知らずのうちに身につけてくれたし、生涯の友と呼べる素晴らしい人々との出逢いもあった。

体育会テニス部と勉強との両立は決して楽なものではなかったが、それぞれの生徒がそれぞれの目標に向かって生きている中で、自分も精一杯生きていた時代をもてたということは、私自身の誇りだと思っている。今でもよく当時から友人と集まると話すのだが、あの頃は本当に貧乏だった。キャンパス内のATMに並んでは大事そうに\$20を出して、これで今週一週間は豊かに暮らせると喜んだものだ。それでもあの頃は、お金がなくても何でもなかった。周りにはもっと貧乏な生徒が溢れてたし、それぞれが心の中に夢をもって、がんばることが一番大事なことだった。みんなが輝いていた。化粧する暇があったら、寝ていたいと思っても、汚い服を着ていても、生徒は勉強をするために、自分の視野を広げるために、大学に来ているのだから、それが当たり前だった。無論、羽目を外すこともあったが。

この様な機会を与えてくれた両親には本当に心から感謝してやまない。そして、大学生活で学んだことは、これからも心の中で磨き続けていきたい。

(P-3へ続く)

## ルノワール(1841/1949) 「犬を膝に抱いて読書する少女」

-1874年作  
美術同好会

8月初旬にどしゃぶりの雨の中、米沢から車で山形美術館に着いたのは丁度お昼前。訪れる人も少なく、ゆっくりと心行く迄名画を鑑賞することができた。充実した展示内容に驚くと共に、頭から離れない作品との出逢いがあった。

正面玄関を入ると広いホール。その正面にルオー、ピカソ、シャガールの絵が整然と並べてあった。

次の部屋に行くと、沢山の印象主義派の作品が見られた。

その中で私の目を奪ったのは「犬を膝に抱いて読書する少女」の絵であった。パリ(5/14~9/12'85)ボストン美術館(10/9~1/5'86)のみで展示された作品が遠く離れた山形美術館で鑑賞できるとは思いもよらなかった。

1874年のこの作品は風景をバックにしばしばルノワールが好んだポーズで描かれている。少女のドレスは前にボタンのあるブルーの縞柄で何の飾りもなくとても簡素である。手を頬に当て俯きかげんに本に見入る眼は魅惑的に描かれている。すばやい生気に富む筆触が草むらにみなぎる外光のわななきを的確に描きだしている。

ルノワールのこの作品は、彼の手によって有名な印象主義派のオークションに出され、何人かのコレクターを経て1901年6月にベルリンの画商の手に入っている。

1985年から1986年にかけてパリとボストンのみで展示されたこの作品は、今、静かで、自然の美しい東北の地、山形にあって訪れる人の心に優しく温かく訴えている。(8・31・95酒井記)

### 次回鑑賞予定

#### 1) 終戦50年企画

「アメリカに生きた日系人画家たち」展

会場 東京都庭園美術館(8/12~10/1)

#### 2) 「ゴッホとその時代展」

会場 安田火災東郷青児美術館

(9/14~11/13)

(幹事 酒井典子)

## 「歴史を飲もう会」報告

金子佳生

国際人として5千円札の顔にもなっている新渡戸稲造氏にスポットをあて、7月29日(土)に第5回会合を行いました。ゆかりの地として今回は彼と、彼の生後すぐ亡くなってしまったお子さんの2人が永眠する、多磨霊園を訪れました。

酷暑の中11名が集まり新渡戸稲造氏のお墓参りの後、同じく多磨霊園に眠る著名人のお墓を回りました。北原白秋、ゾルゲ、三島由紀夫、向田邦子等々、たくさんの方々のお墓があるのには驚きました。暑かった分、その後に飲んだビールの味は最高でした。

今回は、秋口にまた少し趣向を変えて催したいと考えています。

申込先: ( ) 金子

## SOUND FROM BOSTON

### 竹中真・安積尚子ジョイントコンサート

6月16日金曜日夜、ボストン会として第3回目のコンサートを開催しました。

今回は異色のジョイント・コンサートで、アルト歌手の安積尚子さんとジャズピアニストの竹中真さんをお招きしました。

ボストンでは決して同じステージに立つことのない組み合わせで、型にはまった歌唱法の中で自己主張をする歌い手と、型にはまらぬ演奏法で自己主張するピアニストの間に見られる緊張感が、身近に感ぜられるコンサートでした。曲が変わると、リードするパートが替わり、歌が、或いはピアノが交互に自己主張し、且つ相手を立てる不思議な魅力に溢れる一夜でした。ジャズ風にアレンジされた「金襴緞子の花嫁」を、竹中さんのピアノで安積さんが心を込めて歌われたのはこの日の圧巻でした。当日の演奏曲目は次の通りです。

- |  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 待ちぼうけ。                              | 2. 雨ふり。             |
| 3. 花嫁人形。                               | 4. Fruhlingsmorgen. |
| 5. Ablosungim Soulmor 6. Old Cape Cod. |                     |
| 7. Bye Bye Blackbird.                  | 8. 中国地方の子守歌。        |
| 9. からたちの花。                             | 10. サルビアの花。         |
| 11. よいまち草。                             | 12. 子守唄。            |

幹事会記録

☆1995年5月7日(日)出席者13名

1. 同好会(WGを改称)活動報告と計画
  - \*レディーズ会音楽会(95年6月16日)
    - 於「アングンティエーノ」(別項参照)
  - \*レディーズ会旅行企画(95年9月末)
    - ボストンシンフォニーと紅葉を楽しむツアー
  - \*歴史の会(95年7月15日予定)
    - 多摩墓地巡り(新戸部稲造氏)(別項参照)
2. ボストン日本語学校創立20周年記念行事支援
  - \*募金協力・銀行口座開設(別項参照)
3. 年次総会開催準備
4. 会員入会状況(95年2月/5月7日)
  - 法眼氏(元ボストン総領事)、増島氏(MIT)。

★1995年7月18日(火)出席者13名

1. 同好会活動報告・計画
  - \*レディーズ会音楽会(95年6月16日)
    - 参加者38名。収支¥12,000プラス
  - \*レディーズ会ボストンツアー(95年9月末)
  - \*歴史の会(95年7月29日に変更)
  - \*音楽の会(95年10月19日)
    - 「加藤知子バイオリンの夕べ」於綱町三井クラブ
  - \*懇親ゴルフ会(次回95年10月20日)
    - 次回予定(於柏カントリー)(別項参照)
2. ボストン日本語学校募金応募状況
  - 現在口座に振込金額約30万円
  - ボストンツアー訪問時に届ける予定
3. ウェントワースホテル保存寄付
  - 義援金は先方に届けたとの報告受けた。
  - ボストンツアーの折り、訪問を予定する
4. 特別会員の規定設定(運営細則に追加)
  - アン・キャラハンさんを推薦
5. 「ボストンへようこそ」コピーサービス(別項参照)
6. 年次総会(95年11月2日午後6時開場)
  - 於NEC三田ハウス・芝クラブ(別項参照)
7. 会報発行スケジュール(第6号95年9月末)
8. 会員入会状況(95年5月/7月18日)
  - 松本さん、森島さん、山崎さん。3家族

★1995年9月19日出席者13名

1. 第4回総会(95年度)打合
  - \*会費: 当日払6000円 同伴者5000円
  - 事前振込(10月末迄)5000円 同伴者4000円(続く)

第1回ゴルフ大会に14名参加

日本ボストン会初めての懇親ゴルフ大会は、5月12日に千葉県泉カントリー倶楽部で開催され、当日都合がつかなくなった方を除いて4組14名の方が参加しました。

藤盛さんのお力ぞえで、素晴らしいコースでプレーでき、ホールアウト後に雨に変わるなど天気にも恵まれました。

ダブルペリア方式のハンディキャップで優勝が争われ、好プレー、珍プレーが続出し、グロス97ながらハンディキャップに恵まれた近藤宣之さんが初優勝。ベストグロス94の篠崎史郎さんでネットでは準優勝。3位に佐々木浩二さんが入りました。ブービーはネット107の増島道雄さんでした。ドラコンは土居陽夫さんと金子佳生さん。ニアピンは土居陽夫さんと佐々木浩二さんがとりました。

次回の懇親コンペは10月20日に千葉県の柏カントリー(常磐線柏駅より)で行われます。参加費は5000円。プレー費は25700円ですが、当日お支払い戴いて結構です。

集合は午前8時。スタートは9時です。4組16名の先着順ですので、早めにお申込み下さい。

連絡先 近藤宣之・百合子

\*\*\*\*\*  
「ボストンへようこそ」  
コピーサービス

現在在庫がない「ボストンへようこそ」は、在ボストン日本人会婦人部により改訂版を作成中ですが、完成時期は今のところ未定です。

しかし、日本国内に於いて、これから留学、または駐在する方々からの要望が絶えないため、この度、ボストン日本人会と相談の結果、「ボストンへようこそ」の記事の中で特に要望のある部分をコピーしてお分けすることができるようになりました。

ご希望のある方はご連絡下さい。(事務局)

\*\*\*\*\*  
幹事会記録(続き)

2. ボストン日本語学校募金応募状況(9/5)
  - 応募者 79人 約45万円+\$910
3. 1994年度活動報告・会計報告(別途報告)